

2020年度「なごや環境大学」実行委員会 総会 議事録

日 時：2020年5月18日（月）16：00～18：00

場 所：名古屋市環境学習センターエコパルなごやバーチャルスタジオ
及びオンライン開催

出席者 総出席者	39名	（委任状含む）
・委員長	1名	
・学長	1名	
・実行委員	20名	（出席委員14名、委任状6名）
・監事	1名	
・参与	2名	
・チーム員・関係者	5名	
・事務局	7名	
・傍聴者	2名	

1 はじめに

司会挨拶より総会開始

寺西主幹の司会で総会開始。当総会は Web 会議であることを言及。

（1）委員長挨拶

伊東委員長挨拶

名古屋市副市長の伊東です。今年度より環境局を担当することになり、この「なごや環境大学」実行委員会の委員長を務めさせていただきます。今後ともよろしく願いいたします。

本日は御多忙の中ご出席いただき誠にありがとうございます。また日頃は名古屋市の環境行政はじめ市政へのご理解ご協力を賜り、重ねて御礼申し上げます。

2005年に開学した「なごや環境大学」は、持続可能な社会の担い手づくりの先進的な取り組みとして、今では広く行われることとなりました。なごや環境大学が全国的に評価されていることを嬉しく思っております。これもひとえに皆様のご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。

本日の総会では昨年度（2019年度）の成果を報告し、今年度（2020年度）の事業計画についてご審議いただきます。

開学以来15年間で築きました人のつながりは、なごや環境大学の最大の強みです。今年度もこの強みを生かして、行動する人の環をさらに大きくできるよう取り組んで参りたいと考えます。

新型コロナウイルス感染症につきましては、今も気の抜けない状況ですが一日も早い終息を願っております。皆様方におかれましても三密を避けて、Stay at home を心掛けていただければと思います。

今回はこのように制約の多い状況下ということで初の Web 会議での総会となり、手探りのところもありますがご容赦ください。逆にこのような状況下だからこそ、なごや環境大学が果たすべき役割などについて、皆様方から忌憚のないご意見・ご提案をいただきたいと思えます。今後とも格別のお力添えを賜りますようお願いいたします。

学長挨拶

涌井学長挨拶

緊急事態で市政のなかでも重要な役割を果たしている伊東委員長に出席いただきありがとうございます。

かねてから地球環境問題の生命圏・生態系のシステムに限界が見えてきた、その限界にどのように対応していくのか、SDGs のような具体的な目標はあるが足りないような状況で、必ず **transformative change** 我々の日常の行動変容も含めた社会的な大変容が起きるだろう、起こさねばならないということは皆様の記憶のなかに残されているのではないのでしょうか。

残念なことに今回のコロナウイルスによって、我々自身が改めて社会的大変容にどのように向かっていくのかという考え方を明確にし、同時に環境問題をもっと身近に考え対応していくことが極めて重要だという局面を迎えています。

コロナウイルスの拡散の原因を考えていけば、本来なら我々が手を出してはいけないところまで野生生物を蝕するようなところにも大きな原因の一つがあります。様々なかたちで、我々が地球の持つ精緻な生態系に対して日常から配慮していく必要があります。それは専門家だけの見方でなく、ちょうどこのコロナウイルスに対し、名古屋市民や日本国民全部が自分自身の行動変容を起こしながら、どうやって実践をして持続的な未来を獲得するのかという状況を得ているのと同じような条件で、我々がこの問題に対応していく必要があります。

そういう意味ではなごや環境大学の取り組みやコンセプトが極めて役割が大きいと改めて自覚しています。三密の厳しい問題があるなかでも、様々な形で感染の拡大、うつらない、うつさないことを前提にプログラムを前向きに進めようとしていることにも心よりお礼を申し上げます。同時に、実行委員の皆様が懸命になってなごや環境大学の価値や意味を、具体的な企画によって、より明確にしていこうと努力を重ねられていることに心より敬意を表します。皆様本当にありがとうございます。

(2) 実行委員等の異動について

○参与の異動について

資料に基づき事務局から説明。

2 議事

本日は定数 24 名の委員のうち委任状含め 21 名の実行委員に出席を頂き、3 分の 2 以上の出

席であるので、規約第11条第2項に基づき本日の総会は有効に成立している。

また、本日の議長は規約11条第1項により伊東委員長が進行する。

第1号議案：「2019年度事業報告（案）」

2019年度事業報告（案）・・・「議案集 P.2～11」「2019年度活動報告書」

議案集に沿った形で2019年度の活動方針と重点取り組み事項に基づくそれぞれの総括報告が行われた。以下の順に、報告が行われた。

松本委員（企画チーム）

吉田委員（活動サポートチーム）

杉野委員（広報チーム）

鶴飼委員（ユースチーム）

杉野委員（森林プロジェクト）

最後に全体総括として、大鹿代表幹事より報告が行われた。

各チームの報告で触れられなかった部分を含め全体総括をまとめたので、それらを中心に紹介させていただく。

・重点取り組み（以下、「重点」）3：多様な主体が行動する場として、キャンパスネットワークに5施設登録していただいている。団体に活用されていないことが課題。一方で、コロナ対策のため会場が使えず開催できない講座が生じていることにも、環境大学ならではの展開が必要。

・重点6：外部資金の導入について、森林プロジェクト（森林環境譲与税）のように本来の活動とは別のものをうまく取り込みながら、なごや環境大学という場を使って展開をはかるということをしている。このご時世で企業からの外部資金を得るのは難しいが、別のプロジェクトと結び付けてなごや環境大学ならではの事業ができたらと思う。

・重点7：SDGs 未来創造クラブも、なごや環境大学が柱になりながら新しく展開が図っていけると考えている。

・重点5：目標を達成したかという評価は年々しなければならないとしているが、十分なふりかえりが行えていない。まず事業展開ができてからとなるが、状況が落ち着いてから、行いたい。

第2号議案：2019年度決算（案）

2019年度決算（案）・・・「議案集 P.14～18」

議案集に基づき事務局から説明。その後事務局から説明のあった決算書につき2名の監事による監査が行われていることを案内。監査結果について、監事を代表して児玉透監事から「監査の結果、適正に執行管理している」旨報告された。

質問及び回答、意見交換等

なし

第1号議案、第2号議案とも拍手で承認される。

第3号議案：2020年度事業計画（案）

2020年度全体方針、各チーム方針（案）・・・「議案集 P. 20～29」

議案集に基づき各実行委員から説明。・・・以下説明骨子です。

大鹿委員（全体方針）

活動方針は大きく4点。

- ・時流を捉え、未来志向の共創につながる機会を作り出すような事業を展開。
- ・なごや環境大学のこれまでの多様なつながりを活かしつつ、2030年のSDGs達成に貢献できるように求心力を高めていく手法を検討、実施。
- ・新型コロナウイルスにより、社会活動が停滞する中で、感染拡大防止等の変化に対応しながら、積極的に活動する団体や活動を支援する体制づくりを行う。
- ・2021年に中間年を迎える第4期ビジョンの達成度と今後の方向性について確認、検討する。

鵜飼委員（企画チーム） ※今年度よりチーム代表

- ・昨年度まで検討いただいた成果をベースとし、昨年度から延期になったプロジェクトもある。それをどのように実現していくかが新たな課題。工夫しながら実施していく。
- ・改めて、企画チームとして様々な主体のハブとなるという視点が重要。単なるハブでなく様々な主体の声を吸い上げ、声を聴く、橋渡しの役割を重要視して新たな企画を実施していきたい。
- ・ハンドブック改定について、多面的なアプローチが必要。今まで環境大学に関わっていただいた方々、参与などのご協力もいただきながら、よりよく変化していきたい。そのなかで新企画チームの役割も果たしていきたい。

杉野委員（人の環・広報チーム） ※今年度よりチーム新設

- ・活動サポートチームと広報チームが一つになって大きなチームとなった。
- ・本来ならば講座やゼミの充実（数、新たな団体を増やすなど）の使命があるが、今回はまず「安心・安全な運営」を心掛け、予防対策や運営面のサポートをしていく。あわせて、オンラインやウェブの活用を視野に入れ、負担金等の制限はあるが柔軟な運用を実施していきたい。
- ・協働の前提として、なごや環境大学が互いの情報交換・共有の場になるように。各々問題を抱えていることなど、団体、実行委員会、事務局でサポートし合うよう交流会などもしたい。
- ・ウェブリニューアルは、4期ビジョンにもあるブランディングに沿って。外部の人はいろいろな目的でなごや環境大学のサイトを見ている。全体を構築し直すためコンテンツ作りをする。
- ・適時・適切で魅力的な情報発信として、パブリシティの面で充実させ、お金をかけずに話題となることを考えたい。

鵜飼委員（ユースクラブ） ※前年度チーム代表として

- ・本方針は前年度のチームで作成したもの。次年度からはユースクラブの代表が自らの声で伝えていただけたらと思う。
- ・今年度はユースのなかでも世代交代があった。新メンバーたちも、将来的には自発的な企画を行いたいと全員が思っている。初年度となる今年度は、先輩たちの活動を勉強し参加して役割を得ながら、企画実施力を高めていくプログラム作り、参加の仕方が中心となってくる。
- ・昨年度制作したユース向けパンフレットを活用し、説明もユース自らしていく機会を作っていくということである。
- ・メンバーの大半が交代しているので、ゼロからのスタートの部分もあるが、若者が成長するプロセスの一つと思う。温かくご支援いただきたい。

杉野委員（森林プロジェクト）

- ・2年目ということで大きく方針は変えないが、「継続」と「新規開拓」の視点で事業推進する。
- ・新たな層を広げ、継続の参加者も、課題解決に近づける力を育むため勉強する機会を設けたい。
- ・なごや環境大学の持つ財産である、関係性のある企業、団体、自治体等を巻き込みながら、そこが管理する森林の学びや、何か一緒に行えるような仕組みづくりをしたい。
- ・設楽町というフィールドも、情報交換しながら経過を確認していく。また、前年度できなかった報告会を実施し検証後に新たな取り組みをプラス。そのプロセスがわかるような情報発信も普及啓発として継続する。

須網委員（SDGs 未来創造クラブ事業）

- ・名古屋市が昨年度「SDGs 未来都市」に選定され、先導的に事業を進めるため、なごや環境大学に SDGs 未来創造クラブを設置。「まちづくり」「人づくり」二つのプロジェクトで進めたい。2020-2021 年度の2年間に渡り実施していく。
- ・まちづくりプロジェクト：低炭素モデル地区の中区錦二丁目で地域課題の解決を図るショーケース事業を展開。SDGs をテーマにしたセミナーを実施し市民の方への普及啓発を行う。昨年のワークショップでコーディネーターをしていただいた千頭先生、錦二丁目の堀田氏も参加し、実行委員の方にも関わっていただきながら進めていきたい。
- ・人づくりプロジェクト：子ども向けの SDGs 学習プログラムを作成し、学校等へ展開する。
ICT を活用した学習、フィールド（施設等）での学習、MYSDGs レポート（夏（冬）休み宿題「夏（冬）の生活」への掲載）。大鹿委員と藤井次長（教育委員会）を中心に進めていきたい。

第4号議案：2020年度予算（案）

2020年度予算（案）・・・「議案集 P.30」

議案集に基づき事務局より説明が行われる。収入の部の説明。支出の部の説明。各チームの事業費は名古屋市負担金収入と SDGs 未来創造クラブ収入の合算となっていること、支出はチームで分けず主催事業費と広報費に分けられていること等を説明。

質問及び回答、意見交換等

なし

第 3 号議案、第 4 号起案が拍手で承認される。

議決事項ここまで。

意見交換

今後のなごや環境大学について、特に、新型コロナウイルスにより、体験型の講座や意見を交わしながら協働で進める社会実験のような事業は実施が難しい状況においても、なごや環境大学の役割を果たしていくためにどのようなことが考えられるかについて意見交換を行った。

伊東委員長：ここからは、「今後のなごや環境大学について」をテーマに皆さまと意見交換の時間としたい。また、アドバイザーボードの皆さまには過去の知見を活かして環境大学の事業へ参画して頂き、参与の皆さまにはそれぞれのセクションとの連携などを考えて頂ければ幸いです。

千頭アドバイザー：素晴らしい活動がどんどん進んでいると感じた。

気づいた点としては、「環境大学の今までの蓄積を生かす」ということを仰っていたが、今までの蓄積、今持っている特徴、優れた点、ノウハウ、はなにかということをも明示的に議論した方がいい。題目的にでなく、解きほぐすことをして。それをどう対外的に売り込むかということにつながる。

また、SDGs という言葉をいろいろな場で聞く。いろいろな立場で使われていて、ある意味ではそれが重要だが、なごや環境大学としてはどのようにかみ砕き、括り直すのかを議論して提示していくことが大事と思う。狭い意味での「環境」からスタートしても、17の目標すべてに関わるため、どう関わるのかを解きほぐすことで、なごや環境大学 SDGs 未来都市なごやの中核を担うことの中身が表現できてくるのではないかと。

欠席されたアドバイザーのコメント（議長より紹介）

岸田アドバイザー：私なりに期待していることとして、なごや環境大学は、まさに、「コラボレーション（協働）を発揮できる場」としての機能が大きいと期待される組織ではないかと考えて

いる。アフターコロナ、あるいはコロナとの共存を考えても、テーマがたとえ何であっても、今や一つの組織で何かをやるということ自体がますます厳しい時代になることは間違いない。そこで大事なことは、ダーウィンを出すまでもなく、環境に柔軟に対応できる考えと体力ではないか。そのための人材づくり、ミスリードしないリーダーこそ今求められていると言っても過言ではないだろう。つまり「協働」を理解した、柔軟に対応できるリーダーづくりこそ、なごや環境大学の役割ではないか。人材づくりはすぐに答えが出るものではないかも知れないが、ぜひとも、意識的な取り組みを期待している。そのために必要とあらば、いつでもはせ参じます。

長谷川アドバイザー：SDGsの広がりを見せた活動となっていることが心強い。生物多様性でいえば、COP10で決まった愛知目標の目標年次。残念なことにCOP15も延期されるとのことだが、一つの節目となる年。2010年のCOP10に向けては多くの市民を巻き込んだプロジェクトも実施し、多くの人々になごや環境大学や楽しみながら生物多様性を守ることを意識づけてきた。SDGsというより広い領域に取り組んでいくにあたっては、SDGs未来都市や生物多様性の目標年次というタイミングを逃さず、なごや環境大学の仕組みを活かして、多くの人々を巻き込んだ発信を行い、SDGs、生物多様性の目標達成に導いてほしい。

香坂参与：ヨーロッパでもcovid-19で都市部含めロックダウンが起きて、比較的収入に余裕がある層は庭を持ち緑に触れる機会があったが、あまり豊かでない層にとって、公共の緑地は非常に重要な役割を果たしたと言われている。ドイツでも森林の散歩が大きな役割を果たした。昨年グリーンインフラということで事業にも関わらせていただいたが、大学の方も少人数に限って実習はしており、なごや環境大学でも人数が限られたなかではあるが事業を行う上で、都市部の緑は重要な役割を果たすというのが名古屋においてもポイントではなかろうかと思う。

野中委員：「なごや外来種を考える会」を運営して共育ゼミナールもやっている。名古屋市では現在「当面の間イベントは原則中止または延期」と聞いている。どのイベントであっても、運営には準備期間も必要のため、いつごろからできるというアナウンスも重要ではないかと感じている。

伊東委員長：名古屋市の方で先週金曜日に会議があり、イベントについてはガイドラインを示し、各局で個別に検討するという事になった。ウェブの方でも専用サイトを設け、環境局の方でも考えているので、皆様に適切に情報が行くようにしたい。

退任する実行委員の紹介、お言葉

今回の総会をもって松本イズミ委員、西野圭一郎委員、吉田耕治委員が退任。出席いただいた松本委員、吉田委員よりご挨拶をいただく。

松本委員

開学以来、立場を変えながら15年近く関わってきました。この間ともに汗をかいて進めてきました皆様に御礼申し上げます。

この間も、他での委員をやらせていただき、なごや環境大学の委員が決定的に違うのは、いわゆる審議員のようなご意見番ではなく、同じ志を持つ仲間、市民や市民団体の皆様と共に考え実行できるということが大きなことでした。今後も環境大学が環境活動のプラットフォームであり続けながら、関わる運営側の実行委員達も楽しみながら共に育っていける場所であり続けてくれることを期待しています。お世話になりました。

吉田委員

私はたったの2年ということで任期途中で辞めさせていただくことをお詫び申し上げます。本業の方で忙しくなり、また、このような事態となってしまいましたが、なごや環境大学のことをこれで縁が切れたと思っているわけではなく、名古屋の環境を推進する上で環境大学が中心となっていくのだと思っているので、これからも応援させていただきます。

この2年間皆様方とお話をさせていただいた中で、私自身も勉強させていただき感謝しています。これからも環境大学が盛り上がることを願っています。ありがとうございました。

涌井学長より

大鹿代表幹事が新たな組織づくりの中で新機軸を出してフォローアップできる体制をお考えいただいたことに感謝申し上げます。また、退任される松本委員、西野委員、吉田委員、お三方にもご貢献いただいたことに心より御礼申し上げます。

本日話を伺っていて、問題の在りかをご理解いただいていると思いました。UNDB-Jの委員長代理として、せいかりレーキックオフをさせていただきました。そこで強調したのは、環境問題は、過去よりも未来に向けてどう切り込んでいくのかが極めて大事で、そうした意味で一番重視しなければならないのは、環境大学の志をどうやって持続的に未来に引き継いでいくのか、多くの世代の方が松明を掲げて走っていただき、我々が作ってきた過去の歴史をどう変容させていくのかが極めて重要だと考えます。

そういう面では、ユースクラブには期待したい。企画チームと人の環・広報チームというわかりやすいチーム編成となったことから、その中で次世代の人材をどう育てていくのかに注力しなければならないと考えています。しかしながら全体像をみると、残念ではあるが参考資料P10にあるように環境大学を支える仲間たちが減っている。累計は伸びていても実質活動を支えていただく仲間をどう増やしていくのか、必ずしも量だけというわけではないが、その点が課題かと思っています。

予算でいえば、SDGs 未来創造クラブが活動していくということで倍になっている。実際のフィールドをもつことが、今後どう本体の事業に取り入れるかは非常に意義があることだと考える。実際のフィールドを持つことで具体の課題が何なのかが明確になる。この活動はそういう意味でも意義があると考えます。

一点、ご検討いただきたいのは、2020年度の取り組みのなかで全体方針の冒頭に時流を捉え未来志向を作り出す事業を展開するとあります。今我々が抱えている問題は（表現に迷いはあるが）天諫のような形で covid-19 が襲いかかっている。我々が記録だけでなく記憶を共有できるかどうか、全体が持続的な未来を共有できるのか、いろいろな立場がありながら課題を共有していくのかという重要なテーマをもらったと考えています。従って全体方針の活動方針の中に「covid-19のなかどう考えていくのか」を書き連ねていくことを検討いただきたい。

歴史的にみても、奈良時代には指導者である藤原氏が疫病により多く没したことが、国分寺、東大寺を建立するきっかけとなり新たな文明を築くこととなった。ポーランドにモンゴル帝国が侵入したことによってパンデミックが起きたことで中世が幕を閉じ近世が幕を開いた。大航海時代に起きたペストの流行も近代を近世にした。

専門家としては記録を重視することが大事だが、「同じ時代に生きてこのような方策を考えた」という記憶の共有化をすることが極めて大事。2020年度のはじまりの部分については、covid-19の大きな問題の記憶を共有し、課題解決や行動変容についてお互いが環境というテーマのなかで語り合える場ができるといいと思います。

我々の活動は顔を見ながら仲睦まじくという温かみを共有して一つの成果を求めるという方法でのアプローチが多かったが、いい機会であるのでまた違ったアプローチで、なごや環境大学ならではの手法で多くの時代の意識の共有を図ると同時に、それぞれ行動のありようを自らも問いかけ他者とも語り合うステージを作ってもらえるといいと思います。

今日このような形で総会を開くまでこぎつけていただいたことに、大鹿代表幹事に改めて御礼を申し上げますとともに、今年度チーム代表を務められる、杉野さんと鶴飼さんには大車輪で活躍をしていただかなければならないと思うが、どうぞよろしく願い申し上げます。

閉 会

議長よりすべての議事が終了したことが宣言され、鳥羽事務局長から総会の予定がすべて終了したことを伝え閉会。